

レビ記14章「病からの完全な回復」

1A 患者の迎え入れ 1-32

1B 二羽の小鳥 1-9

2B 血と油のきよめ 10-32

1C 代償のいけにえ 10-20

2C 貧しい者たち 21-32

2A 家の壁 33-53

1B 冒された石の除去 33-42

2B 七日後 43-53

1C 全ての取り壊し 43-47

2C 二羽の小鳥 48-53

3A ツアラアのまとめ 54-57

本文

14章です。私たちは前回、ツアラアにかかった患者や服について見て行きました。かつては、らい病と訳されていた言葉です。症状が出てきますが、途中で引っ込みます。それで、もう大丈夫だと思ったら、再び症状が現れます。症状が無くなっている時に、治ったのではなく、むしろ皮膚の下で病が進行していたのです。皮膚の中に潜って、広げていく病です。ツアラアは重い皮膚病に限らず、服にできた、かびをも指しています。服のかびもまた、その部分をちぎらなければ、知らないうちに全体に広がっていきます。

これが、聖書では「罪」を表しているものとして登場します。神の裁きとして、ツアラアにかかったミリアムやウジャがいます。傷を受けているというのが、罪を犯している状態として形容されています。そして、主が受けられたうち傷が、私たちの魂を、そしてからだも癒やすということが、イザヤ53章に預言されていました。このようにして、罪を示しているですね。

そして、それがツアラアなのか、なかなか分からない時、祭司は、七日間隔離します。それからさらに、その症状が軽減されていないのなら、再び七日間隔離します。そして、症状がなくなったらきよいと宣言しますが、それでもまた再発することがあるのです。その時は、即、汚れていると判断します。罪というのは、このように隠れて行きます。自分に罪があると認められず、正しいとしていってしまうのです。そこで汚れている人が汚れていると認めることができるまで、祭司が調べる必要があるのです。イエス様が、パリサイ人や律法学者の正しさは、神の前に義と認められないことを示すために、いろいろなたとえを語られましたね。放蕩息子であるとか、良きサマリア人であるとか、私たちの問題は、自分を正しくすることだと良く分かります。福音は、神の前で、隠れたと

ころがなく、ありのままの自分を神の前に見せて、へりくだることです。

そして、ツアラアトの人は、イスラエルの宿営に住むことはできません。その外に住んでいます。預言者エリシャの時代、サマリアの町で、その外で残飯を食べていた四人のツアラアトの人が出てきます。宿営の中に入れなからずです。そのようにして、罪の汚れがあると、聖なる神の交わりができないし、聖なる民の間に住むことができないのです。

1A 患者の迎え入れ 1-32

そこで 14 章です。14 章は福音です。ツアラアトの人が、きよめられる時に祭司が何をしなければいけないか、主が教えておられます。その儀式に、イエスご自身のお働きが色濃く、写し出されています。

1B 二羽の小鳥 1-9

¹主はモーセにこう告げられた。²「ツアラアトに冒された者がきよめられるときのおしえは、次のとおりである。彼が祭司のところに連れて来られたら、³祭司は宿営の外に出て行く。祭司が調べて、もしツアラアトに冒された者の、その患部が治っているなら、⁴祭司はそのきよめられる者のために、二羽の生きているきよい小鳥と、杉の枝と緋色の撚り糸とヒソブを取り寄せるように命じる。

宿営の外に生き、誰かが自分に近づいたら、衣を裂いて、髪を振り乱し、「汚れている、汚れている！」と叫ばなければいけない定めにあった人が、癒されるという経験をしました。しかし祭司は、清められたツアラアトの患者のところに行って、そのことを確認しているだけで、祭司が彼を癒したのではないことに注目してください。その癒しがどのように行なわれたのか、ここには書いていません。医者、人を癒やすのではなく、神が癒すのですが、それと似ています。ここに律法の限界があります。

律法の限界とは、律法だけではその目的が達成できないという限界です。患部が治っているならば、祭司が行って、きよめられていることを宣言することはできます。けれども、肝心の清めが書かれていません。そこに、神のご介入が必要なことを教えているのです。律法が律法だけで成り立たず、神とキリストのご介入が必要だということです。「ヨハ 1:17 律法はモーセによって与えられ、恵みとまことはイエス・キリストによって実現したからである。」律法の下にいれば、そこには義に対する飢え渇きが出てきます。救い主が来られることを熱心に待ち望むようになります。この方にうめくのです。

癒しを受けた人で有名なのはナアマンです。彼は預言者エリシャの指示どおり、ヨルダン川に七度浸かることによって、幼子の肌のようにきれいになった、とあります。神がご介入されて、初めてきよめられました。そして、私たちの主イエス・キリストが行われた御業があります。マタイ 8 章 1

節から 4 節にあります。ツアラアトにかかった人は主のもとに来て、ひれ伏して、「主よ、お心一つで私をきよくすることがおできになります(2 節)」と言いました。これは、「あなたこそが、キリスト」です、と言っているに等しいです。神から来られた方でなければ、清めることはできないという告白です。それに対してイエス様は、「わたしこそがキリストだ」と言われているようなものです。「イエスは手を伸ばして彼にさわり、「わたしの心だ。きよくなれ」と言われた。」すばらしいですね、これまで誰にも自分を寄せ付けていないらい病人に対して、イエス様はあえて手を伸ばして、彼に触れられたのです。

⁵ 祭司は、その小鳥のうちの一羽を、新鮮な水を入れた土の器の上で殺すように命じる。⁶ そして、生きている小鳥を、杉の枝と緋色の撚り糸とヒソブとともに取り、それらをその生きている小鳥と一緒に、新鮮な水の上で殺された小鳥の血の中に浸す。⁷ それを、ツアラアトからきよめられる者の上に七度かけ、彼をきよいと宣言し、さらにその生きている小鳥を野に放す。

ここが、驚くべききよめの儀式です。用意されているのは、二羽の小鳥です。そして土の器と湧き水と、それから杉の木、緋色の撚り糸と、さらにヒソブです。聖書では、同じ方式が何度も出てきます。例えば杉の木であれば、マラの水が苦かった時に、主は一本の木を水の中に投げ入れたらそれが甘くなるとモーセに言われました。緋色の撚り糸は幕屋に多用されていましたね。

この儀式が表しているのは、まさに私たちの主イエス・キリストの全生涯です。初めの小鳥は天から来られたイエス・キリストの姿を表しています。そして、土の器は人となられたイエスを指しています。この方は確かに、土の塵によって造られたアダムと同じ肉体を有しておられました。そして、小鳥がほふられます。十字架の死です。その血は、湧き水の中に落ちています。湧き水と言えば、イエス様はサマリアの女に、「ヨハ 4:14 しかし、わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渇くことはありません。わたしが与える水は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」と言われました。主が流される血こそが、永遠のいのちを与える源となりました。さらに杉の木は、この方が確かに木に磔にされて死なれたことを意味しています。そして緋色の撚り糸は、主が流された血潮の色です。

そして、もう一羽の小鳥をその中に浸しています。お分かりですか、「水に浸す」という行為は、水のバプテスマを連想しますね。その水を今、祭司はツアラアトの人に対して七たび振りかけているのです。患者が、これら死んだ小鳥とまた生きている小鳥に、自分自身を一体化させていく意味を持っています。

そしてその生きた小鳥を野に放すのです。これは主が昇天されたことを表します。いかがでしょうか、ツアラアトの人は自分が受けていた隔離という呪いが、今、土の器の中で葬られ、そして空に飛び立った小鳥のように、まったく新しい、解放された人生の中に自分が入られるを感じ取

ったことでしょう。同じように、私たちはキリストの死とよみがえりに自分を一体化させ、そして天に昇られたキリストの福音は、これまで自分を卑しめていた罪に打ち勝つ力を与えるのです！

⁸ きよめられる者は自分の衣服を洗い、その毛をみな剃り落とし、水を浴びる。こうしてその人はきよくなる。その後で、宿営に入ることができる。しかし、七日間は自分の天幕の外にとどまる。⁹ 七日目になって、彼は髪の毛、口ひげ、眉毛など自分のすべての毛を剃り落とす。すべての毛を剃り落とし、自分の衣服を洗い、からだに水を浴びる。こうしてその人はきよくなる。

衣服を洗い、そして毛を剃り落としてから宿営の中に入ります。けれども、自分の天幕の中にはまだ入ることができません。七日待ち、その一週間で生えた毛を、再びすべて剃り落として、再び衣服を洗い、体を水で洗ってから中に入ることができます。

これが意味しているのは、「完全な清め」です。毛によって隠されたところがない状態で、全身が清められたことをこのような形で表しているのです。ひげや髪は、聖書で威厳や尊厳を示しています。しかし、ナアマンが清められた時に、その肌は幼子のようにになっていたことが書いてあります。ちょうど幼子のように、全く新しい人生をキリストの中で始めることができる、ということです。

2B 血と油のきよめ 10-32

完全にきよめられただけでありません、次のいけにえの儀式を読むと、彼はイスラエル共同体の中に完全に回復している、その交わりのご真ん中に立つことができるようにされています。

1C 代償のいけにえ 10-20

¹⁰ 八日目に彼は、傷のない雄の子羊二匹と、傷のない一歳の雌の子羊一匹と、穀物のささげ物としての、油を混ぜた小麦粉十分の三エパと、油一ログを持って来る。¹¹ きよめを宣言する祭司は、これらのものとともに、きよめられる者を主の前、会見の天幕の入り口に立たせる。¹² 祭司は雄の子羊一匹を取り、それを油一ログと一緒に献げて代償のささげ物とし、それを奉獻物として主の前で揺り動かす。¹³ その雄の子羊を、罪のきよめのささげ物と全焼のささげ物を屠る場所、すなわち聖なる所で屠る。罪のきよめのささげ物と同様に、代償のささげ物も祭司のものだからである。これは最も聖なるものである。

初めに、代償のいけにえを捧げます。穀物のささげものも一緒に捧げます。代償のいけにえを献げるのは、この汚れが他の人々に対して大きな影響を与えるからです。個人の汚れにとどまらず、他の人にもその汚れを移してしまう恐れがあったからです。

そして、これが神から来たきよめであることを証するために、祭司のところに行きなさいとイエス様が言われました。ここレビ記 14 章に書かれていることに基づいて、です。「マタ 8:4 だれにも話

さないように気をつけなさい。ただ行って自分を祭司に見せなさい。そして、人々への証しのために、モーセが命じたささげ物をしなさい。」

¹⁴ 祭司は代償のささげ物の血を取り、それを、きよめられる者の右の耳たぶと右手の親指と右足の親指に塗る。¹⁵ 祭司は油一ログからいくらかを取って、自分の左の手のひらに注ぎ、¹⁶ 右の指を左の手のひらの油に浸し、その指で油を主の前に七度振りまく。¹⁷ 祭司はその手のひらの中の残りの油を、きよめられる者の右の耳たぶと右手の親指と右足の親指に、すなわち先の代償のささげ物の血の上に付ける。¹⁸ 祭司はその手のひらの中の残りの油を、きよめられる者の頭に塗る。こうして祭司は主の前でその人のために宥めを行う。

ここが、ツアラアトの人の清めの儀式の特長であります。血を右の耳たぶ、右手の親指、右足の親指にあてがう儀式は、祭司が任職するときの儀式と同じです。それだけでなく、さらに油をそこに塗り、残った油を頭に塗ります。つまり、彼は祭司と同じような栄誉ある地位を得たということを表しています。血によって耳、手、足が清められ、さらに油によって聖別を受け、聖霊に満たされたものとみなされています。

これが恵みの御業です。私たちは単に罪が洗い清められただけでなく、とてつもない祝福をもって迎え入れられるのです。放蕩息子の話を思い出してください。彼は文無しになり、豚のえさを食べているという始末でした。そして天と父に対して罪を犯したことを悟り、父の下でしもべとして働くことを決意しました。父の財産を使い果たしてしまったのですから、当然です。ところが、父は彼に一番良い服を着せました。手に指輪をはめさせました。足にくつを履かせました。そして、肥えた子牛を屠り、大きな祝宴を開いたのです！

¹⁹ 祭司は罪のきよめのささげ物を献げ、きよめられる者のために、汚れを除いて宥めを行う。その後で全焼のささげ物が屠られる。²⁰ 祭司は祭壇の上で、全焼のささげ物と穀物のささげ物を献げる。祭司はその人のために宥めを行い、彼はきよくなる。

代償のいけにえの次に、罪のきよめのためのいけにえ、そして全焼のいけにえを献げます。

2C 貧しい者たち 21-32

²¹ もしその人が貧しくて、それらのものを手に入れることができなければ、自分のための宥めとなる奉獻物とするために、代償のささげ物として雄の子羊一匹を、また穀物のささげ物として油を混ぜた小麦粉十分の一エパと、油一ログを取り、²² また、手に入れることのできる山鳩二羽か家鳩のひな二羽を取り、その一羽を罪のきよめのささげ物、もう一羽を全焼のささげ物とする。

これまでも、貧しい人のためのいけにえの定めがありました。ツアラアトの人は特に貧しかった

と思います。それで、子羊二頭の代わりに一頭、小麦粉十分の三エパの代わりに十分の一エパだけ用意します。そして、その後の儀式はすべて同じです、読んでみましょう。

²³ 八日目に自分のきよめのために、それらを会見の天幕の入り口の祭司のところに、主の前に持って行く。²⁴ 祭司はその代償のささげ物の子羊と油一ログを取って、これを奉獻物として主の前で揺り動かし、²⁵ 代償のささげ物の子羊を屠る。祭司はその代償のささげ物の血を取って、それを、きよめられる者の右の耳たぶと右手の親指と右足の親指に塗る。²⁶ 祭司はその油を自分の左の手のひらに注ぎ、²⁷ 右手の指で、左の手のひらの油を主の前に七度振りまく。²⁸ そして、その手のひらにある油を、きよめられる者の右の耳たぶと右手の親指と右足の親指に、すなわち代償のささげ物の血と同じところに付ける。²⁹ 祭司はその手のひらにある残りの油を、きよめられる者の頭に塗り、主の前で彼のために宥めを行う。

貧しい人に対する教えを、そうではない人に対する説明と同じように、一切省略せずに主は説明しておられます。貧しい人たちが圧倒的に多かったということ、そして主はそのような境遇にある人でも主の前ではまったく同じように受け入れられ、また主に用いられるのだ、ということをごここで教えています。

³⁰ また彼は、手に入れることのできた、山鳩か、家鳩のひなのうちから献げる。³¹ すなわち、手に入れることのできるもののうち、罪のきよめのささげ物として一羽を、全焼のささげ物としてもう一羽を、穀物のささげ物とともに献げる。祭司は主の前で、きよめられる者のために宥めを行う。」
³² 以上が、ツアラアトに冒された患部がある者で、きよめに必要なものを手に入れることのできない者のためのおしえである。

私たちは、いろいろな制限によって、他の人より効率的に主にお仕えできないと感じている人がいるかもしれません。給料がさほど高くない職についているので、献金を多く出すことはできない。自分は体が弱いので、教会の活動に頻繁に参加することができない。主はそのような弱い部分をことさらに大切にしておられます。私たちキリストの体が、他者に対するいたわりを忘れ、教会の運営を優先させるなら、ここにある神の心を忘れていることに気づかなければいけません。

2A 家の壁 33-53

最後は「家屋のツアラアト」です。これまでの、ツアラアトの患者や服のツアラアトと同じような対処法です。

1B 冒された石の除去 33-42

³³ 主はモーセとアロンにこう告げられた。³⁴「わたしがあなたがたに所有地として与えようとしているカナンのに、あなたがたが入り、わたしがその所有地にある家に、ツアラアトに冒された箇所

を生じさせたとき、³⁵ その家の所有者は来て、祭司に、何か冒された箇所のようなものが家に現れたと言って、報告する。

カナンの地に入ってから、という前置きを主は伝えておられますが、なぜなら今は荒野で天幕の中で住んでいるからです。定住生活に変われば、石造りの家を建てます。

³⁶ 祭司は、彼がその箇所を調べに入る前に、その家を片付けるように命じる。すべて家にあるものが汚れることのないようにするためである。その後で祭司はその家を調べに入る。³⁷ 冒された箇所を調べ、もしその箇所がその家の壁に出ていて、それが緑がかった、または赤みがかったくぼみであって、壁の表面よりも深いところに見えるなら、³⁸ 祭司はその家から戸口に出て来て、七日間その家を閉ざしておく。³⁹ 祭司は七日目にまた来て調べる。もし冒された箇所がその家の壁に広がっているなら、⁴⁰ 祭司は、冒された箇所がある石を取り出し、それらを町の外の汚れた場所に投げ捨てるように命じる。⁴¹ また、家の内側のすべての面を削り落とさせ、削り落とした漆喰を町の外の汚れた場所に捨てさせる。⁴² さらに、別の石を取って前の石の代わりに入れ、また別の漆喰を取ってその家を塗り直させる。

原則は他の重い皮膚病と衣類の時と同じです。七日間の隔離の後にカビが広がっているなら、石を取り出し、そして内壁全体も削り落とさせ、新しい石を入れて、それから漆喰で塗ります。ここまですなければ、わずかに残ったかびが、再び広がってしまいます。

2B 七日後 43-53

1C 全ての取り壊し 43-47

⁴³ もし石を取り出し、家の壁を削り落とし、また塗り直した後に、再び冒された箇所が家に生じたなら ⁴⁴ 祭司は入って調べる。もしその箇所が家に広がっていたら、それは家に付く悪性のツアラアトであり、それは汚れている。⁴⁵ その家はその石材と木材と漆喰のすべてを取り壊し、それを町の外の汚れた場所に運び出す。⁴⁶ その家が閉ざされている期間中にそこに入る者は、夕方まで汚れる。⁴⁷ その家で寝る者は自分の衣服を洗う。その家で食事をする者も自分の衣服を洗う。

またカビが生じたら、その家全体を壊します。新約において、私たちの仲間が、教会が、御霊の住まわれる神殿であると書かれています。「I コリ 3:16-17 あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか。もし、だれかが神の宮を壊すなら、神がその人を滅ぼされます。神の宮は聖なるものだからです。あなたがたは、その宮です。」教会にカビをしのばせ、私たち仲間を破壊しようとする悪の分子がいます。それは偽の教師であったり、個々人に肉の弱さにつけこむ悪魔の仕業かもしれません。けれども神が、そのような者を滅ぼしてくださる、という約束です。

2C 二羽の小鳥 48-53

⁴⁸ しかし、もしも、祭司が入って行くことがあり、調べて、家が塗り直された後にその冒された箇所
が家に広がっていないなら、祭司はその家はきよいと宣言する。冒された箇所が治ったからであ
る。⁴⁹ 祭司はその家の汚れを除くために、小鳥二羽と杉の木と緋色の撚り糸とヒソプを取り、⁵⁰ そ
の小鳥のうちの一羽を、新鮮な水を入れた土の器の上で殺す。⁵¹ 杉の木とヒソプと緋色の撚り糸
と、生きている小鳥を取って、殺された小鳥の血と新鮮な水の中にそれらを浸し、その家に七度振
りまく。⁵² 祭司は、小鳥の血と新鮮な水と、生きた小鳥と杉の木とヒソプと緋色の撚り糸とによって、
家の汚れを除き、⁵³ その生きている小鳥を町の外の野に放つ。こうして彼はその家のために宥め
を行い、その家はきよくなる。」

ツアラアトの患者とまったく同じように、家に対しても清めによる儀式を行なっていますね！

3A ツアラアトのまとめ 54-57

⁵⁴ 以上が、ツアラアトに冒されたあらゆる患部、疥癬、⁵⁵ 衣服と家のツアラアト、⁵⁶ 腫れもの、かさぶ
た、斑点についてのおしえであり、⁵⁷ どのようなときにそれが汚れていて、また、どのようなときに
それがきよいのかを教えるためのもので、ツアラアトについてのおしえである。

13 章、14 章のまとめです。罪の性質というものをツアラアトによって知りました。けれども、キリ
ストによって、このやっかいな性質のものをきよめていただくことができます。罪の現実に悩んでい
ても、福音によって克服できる約束もあるのです。